

北っ子 敷島北小学校だより

令和6年1月11日 文責 学校長 増坪広夫

新たな気持ちで3学期スタート

3学期がスタートしました。昨年も県内はインフルエンザなどの感染症が猛威をふるい学校生活にも大きな影響を与えましたが、本校がこうして通常授業が行えていることは、ひとえに保護者の皆様のご協力の賜です。今年も昨年以上に豊かな一年となることを心から願っています。本年もよろしくお願いいたします。



新しい年明けというのは、心があらたまるというか、新しい目標に向かうエネルギーをもらえたようで人を前向きな気持ちにさせてくれます。「1年の計は元旦にあり」とはいいますが「今年こそ〇〇を克服したい」とか、「今年こそ〇〇を始めよう」とか、想像力が無性にかき立てられる時期でもあります。

子供たちにも「ああなるといいなあ」とか「こうなりたい」という想いを強く持ってもらいたいと思います。新年に描いた想いが、すべての子供たちの成長につながることを期待しています。

本物になろうとする意思

始業式の校長の話で「本物とそれと全く同じ区別がつかない偽物と、どちらの方が価値があると思う」こんな問いかけをしました。当然多くの人が「本物の方が価値がある」と答えると思います。そこで私は「偽物の方が圧倒的に価値がある」「そこに**本物になろうとする意思**があるだけ偽物の方が本物より本物だ」と話しました。これは思考ゲームの1つですが、私の考えはこんな話がもとになっています。

性善説という「人は生まれながらにして善性を有する」という中国の哲学者孟子の思想があります。性善説が理想論とすれば性悪説は現実論ですが、性悪説は「人間の本质は欲望であり欲望に支配されている」という身も蓋もない荀子の思想です。「人は生まれながらに悪性をもつ」「ゆえに人が善行をなすならば、それは本性ではなく偽りによるしかない」とそう看破しました。「偽りであり、偽物であり、偽善によるしかない」と。つまりは「人為である」と。「善はもとよりすべて偽善であり、だからこそ、そこには『善であろうとする意図』がある」というものです。

「等価値」もありだと思います。ここから「中身が大事」ということに気がついてもらえれば幸いです。

大谷選手からグローブ寄贈

メジャーリーガー・大谷翔平選手から寄贈されたグローブが敷島北小学校に届きました。ジュニア用野球グローブは、右利き用2個、左利き用1個で、小指の部分には大谷選手のサインが印字され、子ども達へのメッセージが込められた手紙が添えられていました。始業式で紹介したところ大きな歓声があがりました。



大谷選手も小学生の頃は、どこにでもいる普通の少年でした。野球と出会い「本物のプロになる」という高い志を持ち続けたことで、今のトッププロとしての立場を獲得できたわけです。

この本物（グローブ）との出会いが、子どもたちにとってよい刺激になることを期待しています。

野球しようぜ

一緒に添えられた手紙の全文は次の通りです。

書いたタイミングが移籍前だったのででしょうか、所属はエンゼルスのままとなっていました。

学校関係者各位

貴校ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

ロサンジェルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムをご紹介するためのものです。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。 それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。

貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。

大谷翔平

大谷翔平選手 コメント

「私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。グローブを寄贈することで、子どもたちが野球というスポーツに触れ、興味を持つきっかけになってほしいと願っています。」 ※ニューバランスジャパンHP より



もしもの時…〇〇かも知れない

お正月に石川県能登地方で大きな地震がありました。多くの方が被災されていますが、地震が多い日本に住む私達にとっても他人事ではない気がします。懸命な救助活動や支援が現在も続いています。被災に遭われた方々にお見舞い申し上げます。学校でも何かしら支援ができないかと考えています。

さて、話は変わりますが今年は暖冬ようです。数年前の大雪では、県内でも多くの学校が授業を打ち切り、臨時の集団下校や保護者への引き渡しによって子供たちを自宅に帰しています。あんしんメールが使えるという前提ですが、大きな災害や天候の急変が生じた際には学校からの連絡にご留意ください。

状況によっては給食前に帰らなければならない場合や、学童クラブの利用も難しくなることも想定されます。いずれにしても保健所や甲斐市教育委員会の指示を仰ぐ中での対応となります。いろいろなケースが想定されるため、あらかじめ対応を示すことはできませんが、「〇〇かもしれない」を頭の片隅に置いておいていただければ幸いです。

授業を中断して早く帰ることがあるかもしれない…

給食を食べないことがあるかもしれない…

仕事の途中だけど学校に迎えに行かなくてはならないかもしれない…

学童クラブの利用ができないかもしれない…

